

## ジェネラリスト・ナースの成長プロセスから導かれる学習モデルの構築に関する研究

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-09-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 川端, 京子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.20780/0002000004">https://doi.org/10.20780/0002000004</a>

氏名：川端 京子  
学位の種類：博士（看護学）  
学位記番号：甲 第 48 号  
学位授与年月日：令和3年3月22日  
学位授与の要件：学位規則第4条第1項該当  
論文題目：ジェネラリスト・ナースの成長プロセスから導かれる学習モデルの構築に関する研究

論文審査委員：主査 教授 池田 真理  
副査 教授 守屋 治代  
副査 教授 長江 弘子

## 論文内容の要旨

### 1. 背景

臨床看護師の多くはジェネラリスト・ナース（以下、ジェネラリスト）であり、看護の質はジェネラリストの果たす役割や能力に委ねられている。少子高齢化の進展および疾病構造の変化に伴い、看護実践の多くがジェネラリストの能力に支えられているが、ジェネラリストが提供する質の高い看護の詳細やその能力をどのように獲得しているかは明らかにされていない。

### 2. 目的

卓越した実践を行っているジェネラリスト（以下、ハイパーフォーマー）がどのような看護実践を行っていて、それがなぜできるようになったのか、またハイパーフォーマーに至るにはどのような学習過程があったのかを明らかにする。さらに、ジェネラリストがハイパーフォーマーになるための学習モデルを検討する。

### 3. 方法

上司から患者の奥深いニーズまで探求し尊重した関わりを実践していると推薦があった急性期一般病棟のハイパーフォーマー16名に対し、半構造化面接によるデータ収集を行い、継続比較分析法による分析を行った。東京女子医科大学倫理委員会より承認を得て実施した（承認番号5144）。

### 4. 結果

ハイパーフォーマーは【タイミングを図って患者・家族に意図的に介入】し、【患者・家族のそばにとどまることを選択】し時間をかけてベッドサイドでケアを行い、【やり取りを通して患者が納得して主体的に取り組める姿勢を引き出】していた。また、【その日の患者の状況を把握し未来を予測し必要な看護ケアを判断して患者に伝えながら実践】し、退院後に【患者・家族が新たな状況に対応

できる力を獲得できるよう】自宅の状況をイメージしながら力づけていた。これらの実践を可能にするために【情報の収集力・発信力を駆使してチームを動かす】、【後輩への指導の機会を見定め時期を逃さず後輩の実践を支え】ていた。

また、卓越した看護実践の獲得過程には、27 カテゴリー、長期的な学習過程には14 カテゴリーあり、それらを統合してハイパフォーマーに至る成長プロセスとしては『ネットワークの構築と活用』『自己の思考を俯瞰的に捉える』『課題の特定と挑戦』『根拠あるケアと患者の想いの実現を追求する』『実践や日常の経験を次の実践の資源とする』の5つのコアカテゴリーが明らかになった。

## 5. 考察

ハイパフォーマーの看護実践は同僚や多職種の多様な視点からの意見を集めチームに働きかけること、状況を見極めその時に何が必要かを判断する状況判断力が優れていること、後輩との対話を尊重し患者ケアに至るよう後輩を導くという3つの特徴が考えられた。

ハイパフォーマーに至る成長プロセスには、日常の実践を次の実践の資源へ活用する複雑な過程があること、周囲との関わりから自己を高めること、患者の想いの実現を目指した学習行動がみられた。ジェネラリストが成長するために必要な学習モデルとして、挑戦的な学習課題の自己決定を促進すること、経験から資源の抽出のための内省の場を作ること、日常生活の経験を臨床で共有すること、自己の価値観の意識化の機会を持つことが考えられた。

## 論文審査結果の要旨

本研究は、ジェネラリストである看護師の看護実践とそれが実践できるだけの能力をどのように獲得してきたのかを明らかにするとともに、長期的な学習過程にも着目しそれらを統合しジェネラリストの成長プロセスを明らかにすることを目的としている。さらに、ジェネラリストがハイパフォーマーになるための学習モデルの検討も行っている。データ収集は、同じ対象者に2回目面接をするなどの工夫をして丁寧に実施されており、豊かな記述となっている。さらに統合され明らかになった成長プロセスから、実施可能性の高い学習モデルが検討されており、本研究の成果は、専門職である看護師が継続就業していくなかで、看護管理学の発展に資する研究であり、博士論文として適当と思われる。以上、本学位申請論文審査の結果、合格とする。